

犬上川北流漁場の水温モニタリング調査

吉岡 剛

1. 目 的

県内河川漁場では、アマゴ・イワナ・ニジマス・アユ等が漁業権魚種に設定されている。

近年、夏期に猛暑日が続き、河川が渇水になる状況が見られ、河川水温が以前より上昇している可能性が考えられる。

効果の高い種苗放流を行うには、魚種ごとの適水温を考慮する必要がある。そこで、犬上川北流漁場について、夏期の水温モニタリングを実施した。

2. 方 法

令和5年4月28日に、犬上川北流漁場の上流・中流・下流の3地点にデータロガー(ONSET社製 HOB0 Pendant Data Logger UA-002-64)を設置し、1時間毎の水温を測定した。

水温測定地点は、上流が白山橋(多賀町大君ヶ畑)、中流が八畳岩(多賀町佐目)、下流が細原橋(多賀町霜ヶ原)とした(図1)。

ロガーは、令和5年6月1日、7月20日、9月1日、11月9日に回収・交換し、回収したロガーから水温データの読み込みを行った後、日間最高水温を抽出した(図2、図3、図4)。

3. 結 果

集中豪雨により、ロガーが流失し白山橋は夏期のデータが取れなかった。調査期間を通じての最高水温は、八畳岩(18.3℃)、白山橋(22.6℃)であった。八畳岩付近では、大量の水が湧き出しており、その水温は夏場でも15℃前後で安定していた。そのため、八畳岩から下流は、イワナ・アマゴ・ニジマスの生息に適した水温となっていた(図3、図4)。犬上川北流漁場の八畳岩から南流合流点までの間は、周年を通じて溪流魚の漁場として利用が可能であると思われる。



図1 データロガー設置場所

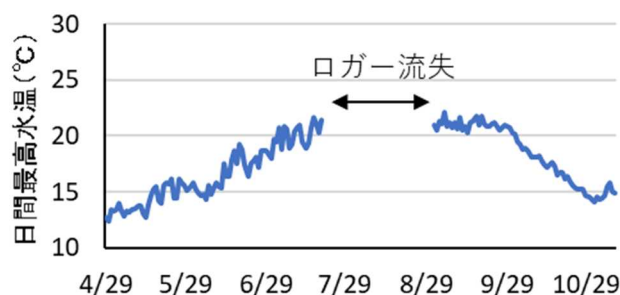


図2 白山橋の日間最高水温推移

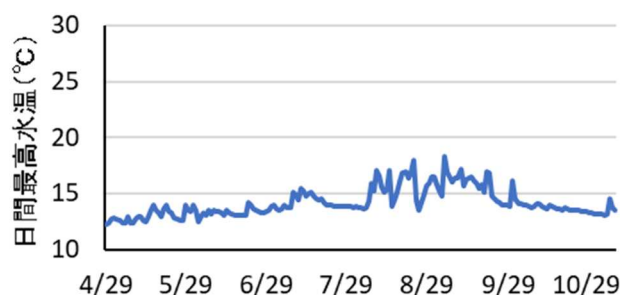


図3 八畳岩の日間最高水温推移

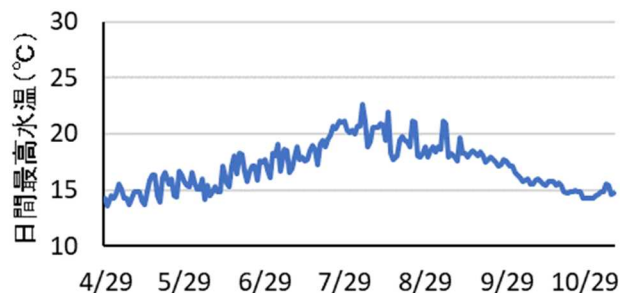


図4 細原橋の日間最高水温推移